



申
7
号

新型コロナウイルス感染拡大防止及び『生命』を最優先とした 安全・安心な鉄道と労働条件をつくりだす緊急申し入れ

6月18日 第2回交渉

3. コロナ禍の長期化が見込まれることから、通常清掃とは別に消毒を行うために特化した体制を構築すること。また、全列車の消毒は運用前に実施すること。

【会社回答】 順次必要な消毒は行っていく。

組合

申6号交渉においても求めてきたが、感染拡大防止のため、車両の消毒を毎日行うべきである。
現在、会社として実施している消毒等の対策を明らかにすること。

会社

毎日消毒しても、直後に触れてしまうとウイルスが残り、24時間消毒される訳ではない。基本的に昼間、車両運用によって2~5日の間隔で消毒を行っている。
グループ会社の今ある体力で出来得る限りやっているが、全列車を運用前に消毒できる体制はない。

消毒はどのように行なっているのか。また、消毒を行うグループ会社の負担増になっていると考えるが、会社の認識を明らかにすること。

次亜塩素酸ナトリウムを薄めて、タオルに染み込ませ、手が触れる場所や手すり、つり革などを拭いている。水拭きを次亜塩素酸ナトリウムに変更しただけなので、作業は大きく変わっていない。

現在、複数の乗務員職場で列車の折り返し時等に消毒を行っているが、職場毎の対応が異なり、素手での消毒作業等の感染防止対策や安全上の問題がある。
感染防止対策は、現場の発意ではなく、社員とお客さまの生命を守るため、企業責任として講じるべきである。

対立

現場の発意で行っており、総務部危機管理本部の決めたやり方(サージカル手袋の使用、拭いたタオルは使い捨て)でやるように指導している。効果はグループ会社による消毒と変わらないが、お客さまに安心してもらうためにやっている。
安全、安心を見せるためにやっているが、通常消毒と見せる消毒とは切り分けてやる必要がある。

企業として、他鉄道事業者で実施されている抗ウイルス、抗菌加工の車両の導入やグループ会社の現体制内での車体清掃を減らし、車内消毒を増やす等の対策を講じるべきである。

社会が求めるサービスは変わってきており、今後の検討要素としてあるかもしれない。
新型コロナウイルスとのたたかいは長いスパンで考える必要があることから、メンテナンスの面などで検討する必要はあると認識する。

新型コロナウイルスの長期化を鑑み、先を見据えた対策を講じる必要がある。消毒等は中・長期的に計画し、職場の発意ではなく、企業として本体やグループ会社の体制含め、責任を持って対応するべきである。

対立

基本は数日おきの消毒を行い、感染症対策ガイドラインに準じており現状の知見では、ある程度効果があると考えている。今後、新たな知見が出てくれば、検討する必要があるが、現行はグループ会社の体力を鑑み、通常の清掃作業の中で消毒を行っていく。

「いのち」を最優先とし、企業責任において感染防止対策を講じるべきだ！